

令和6年産 水稻栽培のしおり

J A 香川県西讃農センター
西讃農業改良普及センター監修
〔農業・除草剤は令和5年10月1日現在登録状況による〕
(令和5年10月作成)

基本技術の励行により、安心・安全な米づくりを目指しましょう!

病害虫の発生状況については
最新の香川県病害虫防除所の
ホームページをご覧ください。➔



1. 稲の生育と管理の要点

生育ステージ	育苗準備	播種	緑化・硬化する	移植	分けつ	最高分けつ	幼穂形成	穂ばらみ	出穂	乳熟	糊熟	黄熟	成熟	収穫														
水の管理 (水深の目安)					間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水	間断灌水														
主な作業	土づくり	種子消毒	浸種・催芽	播種	土壌改良資材 基肥施用	耕起	代かき	箱処理剤施用	移植	初期除草剤	間断灌水	田干し (ガス抜き)	中期除草剤	中干し	間断灌水	病害虫防除	穂肥	策 (カメムシ対策)	出穂前後水管理	出穂期防除	穂揃い期防除	間断灌水	コンバイン等の掃	仕上げ水の実施	収穫	乾燥	籾摺・調製	
管理の要点と注意事項	堆肥を施用しよく耕す。	種子消毒を参考に必ず行う。	適温は30℃で半日、1日、芽出しは1mm程度とする。 日積算100℃まで。 浸種は20℃以下の水温で	苗立枯病防除灌水を行う。	施肥設計例を参考。	作土層についてはよく耕す。	1日当たり灌水水深2cm程度を目安とする。	本田必須防除基準例を参考。	健全生育のため密植はしない。	初期除草剤の使用基準を参考。	分けつ促進のため行う。	2〜3日干す。 ガスの発生が確認されたら	中期除草剤の使用基準を参考。	極端な中干しはしない。	徐々に水の量を減らす。	確認防除基準を参考。	施肥する。 生育や葉色に見合った適量を	出穂10日前までに実施。	灌水管理を行う。 穂への水分補給のために 最も水分が必要な時期。 穂ばらみ期から乳熟期が	本田必須防除基準例を参考。	本田必須防除基準例を参考。	本田必須防除基準例を参考。	水入れの前後を徐々に広げる。	必ず行う。 麦などの混入を防ぐため	最後まで水を行って 粒強りを良くするために	70%以上に仕上げ水を くすばきを行い粒歩合を (適正水分14.5%〜15.0%) 過乾燥に注意すること 刈運に注意すること 時期が刈運期 籾の85〜90%が黄変した		

生育ステージにあった用水の有効利用・カメムシ防除の徹底により品質向上を!

播種量等	移植の目安	育苗肥料	種子消毒	苗立枯病防除
1箱当たり 催芽籾の 播種量	180g 坪当たり 50〜60株	山土等 ○育苗専用肥料を1箱当たり約20g混和する。 ○必要に応じて1〜2回キップボウの200倍液(800ml/箱)を灌水する。 ○灌水後は葉葉にのり液を水で洗い落とす。	対象病害 農薬名 希釈倍数 使用時期 使用回数 特記事項 ばか苗病 テクリードC 200倍 浸種前 1回 2割灌水で24時間浸漬 ごま葉枯病 フロアブル 処理後、水に浸漬する。 いもち病 (塩化の必要なし) 種子消毒の液は、 河川・用水路等に 廃棄しない。	対象病害 農薬名 希釈倍数 処理量 使用時期 使用回数 リソプス菌 タコレート 600倍 500ml 播種時〜 トリコデルマ菌 水和剤 灌水 緑化期 2回以内 フザリウム菌 ピシウム菌 タチガレ 500ml 播種時または フザリウム菌 エースM液剤 灌水 芽発後 1回
10a当たり 必要箱数	約18箱 株間 18〜22cm	専用土 資材名:粒状堆肥SD(約7箱/袋)・JA培土(約5箱/袋) ○必要に応じて1〜2回キップボウの200倍液(800ml/箱)を灌水する。 ○灌水後は葉葉にのり液を水で洗い落とす。	心枯線虫病 スミチオン乳剤 1,000倍 播種前 1回	

2. 施肥設計例 (kg/10a) ※稲わら、麦わらは焼却せずにすき込み土づくりに努めましょう。

① 化成肥料(穂肥2回)

品種名	肥料名	全量	基肥	出穂前		チッソ量
				18日	10日	
オオセト	朝日BB488	80	50	20	10	11.2
ヒノヒカリ		60	35	15	10	8.4

※生育が遅れる場合は、早期追肥を施用する。

② 40日タイプ肥料(穂肥1回)

品種名	肥料名	全量	基肥	出穂前		チッソ量
				18日	16日	
早期コシヒカリ	コシツータッチ	55	30	—	25	5.5
短期コシヒカリ		45	25	—	20	4.5
あきさかり	コシツータッチ	80	50	30	—	8.0
ヒノヒカリ	中生ふたふり	50	30	20	—	7.5

③ 堆肥を利用した施肥設計例

品種名	肥料名	全量	代かき 30日前まで	基肥	出穂前		チッソ量
					18日	10日	
ヒノヒカリ	牛ふん完熟堆肥	1,000	1,000	—	—	2.2	
	中生ふたふり	30	—	20	10	4.5	

④ 全量基肥一発施肥(穂肥なし)

品種名	肥料名	全量	基肥	チッソ量
短期コシヒカリ	Jコート早生1号	30	30	4.2
あきさかり	あきさかり一発	40〜45	40〜45	7.2〜8.1
オオセト	さぬきの米一発(J)	45	45	9.0
ヒノヒカリ	35	35	7.0	

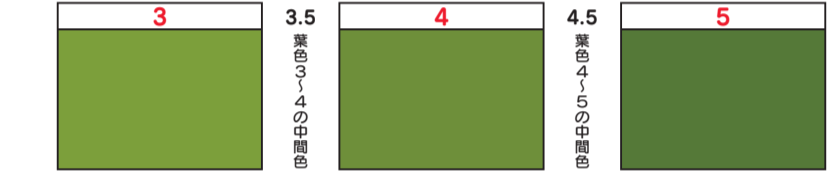
※さぬきの米一発(J)は窒素成分が20%と高いため、施肥量に注意!

⑤ 土壌改良資材

品種名	肥料名	全量	基肥	出穂前	穂肥
全品種共通	ユークシケイカルまたはシリカサポート1号	100	100	—	—
	苦土一番または珪酸加里	60	60	—	—
		40	40	—	—

○早期コシヒカリ:5/15播まで・短期コシヒカリ:5/16播から6/10播まで。
○前発施肥の場合は、基肥を1割減らす。
○農薬散布の際は、近接ほ場の栽培作物に飛散しないよう細心の注意を払う。
○難防除雑草は、発生量を減らすため、春先の耕起前や稲刈り後の「茎葉処理型除草剤」と組み合わせた防除が有効。
○農薬のラベルに記載の使用量・使用時期・使用方法・使用回数を必ず守る。

水稻葉色診断(穂肥の目安)



葉色	3.0〜	3.7〜	3.8〜	4.0〜	4.3〜	4.7〜	4.8〜	5.0〜	5.4以上
コシヒカリ	基準量	減肥 (生育状況に応じて減肥)	減肥 (生育状況に応じて減肥)	減肥 (生育状況に応じて減肥)	減肥 (生育状況に応じて減肥)	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる
あきさかり	基準量	基準量	基準量	基準量	基準の半量	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる
オオセト	基準量	基準量	基準量	基準量	減肥 (生育状況に応じて減肥)	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる
ヒノヒカリ	基準量	基準量	基準量	基準量	減肥 (生育状況に応じて減肥)	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる	穂肥見合わせる

※葉色診断は、出穂18〜16日前、上位展開第2葉(上から2枚目)の単葉の葉色です。

3. 初中期除草剤の使用基準 ※藻類、表層はく離が発生する前に早めに散布しましょう。(10a当り)

使用時期	対象雑草	薬剤名	使用量	使用回数	注意事項
移植直後〜11日	水田一年生雑草、マツバ、ホタルイ、ミズカヤガラ、ウリカワ、クロクワイ、オモダカ、ヒルムシロ、セリ、アオミドロ(葉類による表層はく離)	カチボシルフロアブル	500ml	1回	ノビエ2.5葉期まで。 散布後3〜4日間は水深3〜5cmを保つ。 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、種間浅播、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
移植直後〜7日	水田一年生雑草 マツバ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤガラ	カチボシルジャンボ	30g×10個	1回	ノビエ2.5葉期まで。 散布後3〜4日間は水深5〜6cmを保つ。灌水して畦畔から小包装のまま10aあたり10個の割合で均等に投げ入れる。
移植時または移植直後〜9日	水田一年生雑草、マツバ、ホタルイ、ヘラオモダカ、ウリカワ、ミズカヤガラ、ヒルムシロ、クロクワイ、セリ、シズイ、葉類、表層はく離	ジェイソウル1キロ粒剤	1kg	1回	ノビエ2.5葉期まで。 移植時(田植同時散布)は、除草剤散布機が付いた田植機による処理に頼る。散布後3〜4日間は水深3〜5cmを保つ。 砂質土壌、漏水田、軟弱苗、種間浅播、浮き苗が多い水田は使用を避ける。

5. 倒伏軽減剤の使用基準 (10a当り)

農薬名	使用量	使用時期	使用回数	注意事項
口ミカ粒剤	2〜3kg	出穂25〜10日前	1回	灌水状態に均等に散布。散布後7日は灌水状態を保ち、入水・落水・かけ流し等の水の移動は行わない。

6. 本田必須防除基準例(箱剤・本田防除剤は用途に合わせていずれかを選択する)(10a当り)

箱剤	本田防除	カメムシ防除
播種時(覆土前)〜移植当日1回 エバーゴプラス箱剤(50g/箱) いもち病・紋枯病 フタオビコガ・イネツトムシ・コブノメイガ ニカメイチュウ・ツマグロヨコバイ ウナカ類・イネミスソウムシ 平坦部〜海沿 (但し、綿葉枯病の発生が多くウナカ類が多い場合は、ヒルダールフェラテラチェスGT粒剤を使用した方がよい)	出穂20〜15日前 ゴウケツモンスター粒剤(3kg) いもち病・紋枯病・ウナカ類 カメムシ類・ツマグロヨコバイ 穂枯れ・稲こらじ病・もみ枯細菌病 収穫45日前まで1回	出穂7日〜14日後 スタークル粒剤(3kg) ウナカ類・ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ・カメムシ類 収穫7日前まで3回以内
移植3日前〜移植当日1回 ビルダールフェラテラチェスGT粒剤(50g/箱) いもち病・紋枯病 ウナカ類・ツマグロヨコバイ コブノメイガ 中山間部〜平坦部 (但し、いもち病の発生が少なく、フタオビコガやツマグロヨコバイが多い場合はエバーゴプラス箱剤を使用した方がよい)	出穂12日前後 ワイドパンチ豆つぶ(250g) いもち病・紋枯病 黒黒穂病・穂枯れ(ごま葉枯病) 稲こらじ病 ウナカ類・カメムシ類 収穫35日前まで1回	スタークル豆つぶ(250g) ウナカ類・ツマグロヨコバイ カメムシ類 収穫7日前まで3回以内
	出穂期〜穂揃期 ダブルカットバリダフロアブル(1,000倍) いもち病・紋枯病 穂揃期まで2回以内 150リットル散布 + 混用 エミリアフロアブル(1,000倍) ウナカ類・カメムシ類 イネドロオウムシ・ツマグロヨコバイ 収穫7日前まで2回以内 150リットル散布	スタークル液剤10(1,000倍) ウナカ類・ツマグロヨコバイ カメムシ類 収穫7日前まで3回以内 150リットル散布 斑点米

主な病害虫	いもち病	紋枯病	もみ枯細菌病	内頸腐変病	稲こらじ病	コブノメイガ被害	ミナミアオカメムシ	コウキヤガラ	ホタルイ	アゼガヤ	キシヨウスズメノヒエ
雑草											

4. 中後期除草剤の使用基準 (10a当り)

使用時期	対象雑草	薬剤名	使用量	使用回数	注意事項
移植後14日〜ノビエ3.5葉期まで(収穫45日前まで)	水田一年生雑草 コウキヤガラ マツバ・ホタルイ クロクワイ・ミズカヤガラ ウリカワ	アトカラSジャンボMX	小包装(パック) 25g×20個 (500g)	1回以内	ノビエ3.5葉期まで。灌水状態で20個/10aを均等に投げ込む。散布後灌水状態で7日間落水、かけ流しはしない。麦や稲ワラ等残草は拡散を避け、効果不足の原因となる。ホタルイは草丈10cmまで。コウキヤガラは草丈20cmまで。
移植後20日〜(収穫50日前まで)	水田一年生雑草 マツバ・ホタルイ・オモダカ クロクワイ・ウリカワ ミズカヤガラ・(セリ) キシヨウスズメノヒエ	クリンチャーパスME液剤	1,000ml	2回以内	ノビエ4.0葉期まで。70〜100ℓの水に溶き散布。落水状態で散布し、3日間(浅水処理は5日間)は水の移動を行わない。使用の際には、展着剤を加用しない。
移植後20日(稲5葉期以降)(収穫60日前まで)	ウリカワ・オモダカ クロクワイ・コウキヤガラ セリ・ヒルムシロ ヘラオモダカ・ホタルイ マツバ・ミズカヤガラ 一年生雑草・アオミドロ 葉類による表層はく離	ツイゲキ豆つぶ250	250g	1回	ノビエ4葉期まで。 散布後、3〜4日間は水深3〜5cmを保つ。 砂質土壌、漏水田、種間浅播、浮き苗が多い水田は使用を避ける。
移植後20〜30日(収穫60日前まで)	イネ科以外の一年生雑草 マツバ・ホタルイ・ウリカワ オモダカ・ミズカヤガラ	バサグラン粒剤	3〜4kg	1回	落水または、ごく浅く灌水して均等に散布。落水直後処理とし、散布後2〜3日間(浅水処理は5日間)は入水しない。
発生始〜盛期(収穫45日前まで)	藻類 ウキクサ類	モグトン粒剤	2〜3kg	3回以内	灌水して手まき、または散粒機で均等に散布。水稲が水没するような種間浅播は避ける。散布後3〜4日間は灌水を保ち、落水はしない。

○粒剤の効果発現に必要な止水期間は表示されていますが、周辺環境保全のために1週間以上落水しない。
○農薬散布の際には、近接ほ場の栽培作物に飛散しないよう細心の注意を払う。
○難防除雑草は、発生量を減らすため、春先の耕起前や稲刈り後の「茎葉処理型除草剤」と組み合わせた防除が有効。
○農薬のラベルに記載の使用量・使用時期・使用方法・使用回数を必ず守る。

7. 確認防除基準 (10a当り)

対象病害虫	農薬名	使用量	使用時期	使用回数	注意事項
いもち病・ごま葉枯病 稲こらじ病 もみ枯細菌病 内頸腐変病	ブラジフロアブル	1,000倍	収穫7日前まで	2回以内	発生初期に治療剤として散布する。
紋枯病 稲こらじ病	モンガリット粒剤	3〜4kg	収穫45日前まで	2回以内	施用は、3cm以上の灌水状態で均等に散布し、施用後は少なくとも1週間以上は落水やかけ流しはしない。紋枯病が重症化期に入る出穂期前以降の散布では効果が低下する。
ウナカ類・イナゴ類 ツマグロヨコバイ イネドロオウムシ カメムシ類 イネミスソウムシ コブノメイガ	トレボンEW	1,000倍	収穫14日前まで	3回以内	蜜に対して長期毒性があるので、近くに蜜源がある場合は絶対に薬液にからないようにする。ミツバチ等の集蜂及びその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しない。
スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	スクミノン粒剤	1〜4kg	収穫60日前まで	2回以内	スクミノン粒剤とジャンボたにくん合わせて2回以内の使用とする。
	ジャンボたにくん	1〜2kg			※田植同時施用(ごまきちやん)による散布可能

※各カントリーで、荷受け品種が異なりますので、詳しくは営農センターまたはカントリーにお問い合わせください。